

「世界経済フォーラム東アジア会議2007」についての報告

1. 「WEF 東アジア会議 2007 (World Economic Forum on East Asia)」は2007年6月24-25日、シンガポールにて、「アジアの世紀に向けたリーダーシップの使命 (The Leadership Imperative for an Asian Century)」を共通テーマに開催された。26カ国から300人を超える参加者があり、数多くのダボス加盟企業も参加した。

2. 開幕セッションでは、アロヨ (Gloria Macapagal Arroyo) フィリピン大統領の基調講演に続いて、シンガポール外務大臣 (George Yeo Yong-Boon) やインドネシア貿易大臣 (Mari Pangestu) など首脳・閣僚級が参加し、後半においては若林正俊環境大臣 (当時) の参加が得られた。

3. その他の全体会議や分科会にては、竹中平蔵慶応義塾大学教授や黒川清内閣特別顧問が積極的に発信するほか、議連からの派遣者として筆者も初日午後の分科会「アジアの現在 変化する政治の風 (Asia Update: Changing Political Winds)」にて、経済政治の長期趨勢の規定要因となる人口問題や安全保障問題について発表を行い、また日本人が登壇していない全体会議にて会場からの質問者として積極参加を果たした。なお、この「世界経済フォーラム東アジア会議2007」の主催者による報告書冊子の表紙には、日本からの参加者である筆者の写真が掲載された。

4. 全体を通じての議論を貫く考えとして、以下の点が注目された。1) アジアへのパワーのシフトがあるが、アジアでは国家や社会の機関の発展の強さが十分ではないという懸念があり、またアジア各国間の連携の不確かさも懸念される。2) 指導者・指導力不足 (leadership deficit) が、地球的規模の問題や対外問題への取り組みが必要な時代のアジアの特徴ではないか。3) 地球規模の問題 (例えば、気候変動 climate change, 大量破壊兵器不拡散 non-proliferation, 感染症 pandemics, 資産バブル asset bubbles, エネルギー-安全保障 energy security) などへの取り組みが、アジアでは政府も企業も弱いという欧米からの批判に対して、アジアは論破する力量を発揮できるか。4) アジアの改革を推進するには、ショック療法 shock therapy と漸進主義 gradualism があるが、その選択についての意識を強化する必要がある。5) 業種をこえ、遠隔市場を取り込み、文化の壁を突破する変革の推進者に求められる能力やスキルとはどのようなものか。